

会 議 録

| | | | | | | |
|--------------------|-----|---|----|------|------|----|
| 会議名 (審議会等名) | | 平成31年度 第1回大野中地区まちづくり会議(全体会) | | | | |
| 事務局 (担当課) | | 大野中まちづくりセンター 電話042-741-6695(直通) | | | | |
| 開催日時 | | 平成31年4月11日(木) 午後7時~午後8時45分 | | | | |
| 開催場所 | | 大野中公民館1階 大会議室 | | | | |
| 出席者 | 委員 | 14人(別紙のとおり) | | | | |
| | その他 | 8人(区長、副区長、地域活性化事業交付金申請団体6人) | | | | |
| | 事務局 | 3人 | | | | |
| 公開の可否 | | 可 | 不可 | 一部不可 | 傍聴者数 | 6人 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | | | | | | |
| 会議次第 | | 1 開会あいさつ 2 南区長あいさつ 3 委員紹介 4 議 題 (1) 地域活性化事業交付金申請について (2) グループ討議について 5 その他 (1) 平成31年度まちづくり懇談会の提案議題の募集について (2) 委員の推薦(変更)について (3) 情報提供のお願いについて (4) 今後の日程について 6 閉会あいさつ | | | | |

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会あいさつ

2 南区長あいさつ

3 委員紹介

4 議 題

(1) 地域活性化事業交付金申請について

事務局から、制度の概要説明を行った後、平成 31 年度の申請 4 件(継続)について、申請者を招いて事業説明と意見聴取を行った。

地域の触れ合いと認知症ケア事業(継続)

事務局で交付申請に係る事業の主な事項について説明した後、ふれあいオレンジカフェ 鶉野森の代表者から事業の概要及び収支予算などについて説明を受けた。

《主な意見・質疑等》

事業の参加者に対して、どのように呼びかけしているのか教えてほしい。

地域情報紙への掲載、近隣自治会への周知及び参加者へパンフレットを配布し他の仲間へ周知などを行っている。

事業の参加定員はあるのか伺いたい。

会場の広さなどを考慮し、50 名を限度としている。

参加者が増えた場合には、別の場所を探すなどの検討も必要であると思う。

はい。

このような事業は継続してほしいと思うが、地域活性化事業交付金を継続して交付し続けることが可能なのか事務局へ伺いたい。

同一の事業に継続して交付する場合については、3 年を限度とすることになっている。ただし、まちづくり会議の意見を踏まえ、継続を必要と認める事業は、4 年目以降も継続して交付ができることになっている。この事業においては5 年目となるため、自立に向けた事業の計画を立ててもらっている。

団体で把握している認知症の方は、何人位いるのかお伺いしたい。

2 人いる。実際は認知症を予防するために事業へ参加をしている方が多い。
なお、地域へ出てきていない認知症の方もまだ多くいると思われる。

総合型地域スポーツクラブ事業（継続）

事務局で交付申請に係る事業の主な事項について説明した後、あそべる大沼クラブの代表者から事業の概要及び収支予算などについて説明を受けた。

《主な意見・質疑等》

交付金の交付が無くなった場合、どのように運営を継続していくのか考えを伺いたい。

交付金が交付されている間に普及活動に努め参加者数を増やすとともに、参加者からの年会費や参加費を増額することで、運営を継続していきたいと考えている。しかし、参加者が増えた場合、事業を実施する会場を確保するのが困難な状況であり課題となっている。

参加費は参加者全員から徴収しているのか伺いたい。

子ども向けのプログラムについては、参加費は徴収していない。

子ども食堂と学習支援（あんちょコミックス）（継続）

事務局で交付申請に係る事業の主な事項について説明した後、あんちょコミックスの代表者から事業の概要及び収支予算などについて説明を受けた。

《主な意見・質疑等》

昨年度は大野中地域と大野台地域で活動をしているが、各地域の参加者の状況を教えてほしい。また、事業1回当たりの参加者の状況を教えてほしい。

参加延べ人数

- ・大野中地域 583 人
- ・大野台地域 665 人 計 1,248 人

事業1回当たりの人数

- ・大野中地域 最多 86 人 最小 24 人
- ・大野台地域 最多 91 人 最小 34 人

なお、夏休み期間の参加者が少なかった。

交付金の交付が無くなった場合、どのように運営を継続していくのか考えを伺いたい。

大人の参加者からの負担金について増額することを検討する。

また、食材などの調達について、地域の方や商店の方へ協力をお願いするとともにフードバンクなどを活用することも検討が必要となる。

このような事業については、交付金や助成金の活用、商店や地域の協力などを得ながら今後も続けてほしい。

ありがとうございます。

子どもからは参加費を徴収しないという気持ちは分かるが、無料で食べられるという認識を植えつけないように、あえて子どもからも参加費を徴収しても良いという考え方もある。

今後の課題として検討する。

大野中地区自治会連合会ホームページ運営事業（継続）

事務局から事業概要及び収支予算などについて説明を行った。

《主な意見・質疑等》

特になし

《結果》

平成 31 年度の申請 4 件（継続）について意見聴取を行った結果、4 事業とも継続して進めるべき事業であるとの意見であった。

（ 2 ）グループ討議について

前回の会議において、グループ討議のまとめ（案）については役員会で協議した結果を本日の全体会で報告することとしていたため、その結果を報告した。

《主な意見・質疑等》

学校だけでなく、公民館なども居場所として活用できれば良いと考える。

まちづくりの一環として各種団体の横の連携が必要である。

《結果》

グループ討議まとめ（案）「次代を担う子どもの育成に係る環境の充実について」、異議なく、原案のとおり承認された。

5 その他

（ 1 ）平成 31 年度まちづくり懇談会の提案議題の募集について

まちづくり懇談会で懇談する地域の課題について、各構成団体から募集する旨を事務局から説明した。

《主な意見・質疑等》

特になし

（ 2 ）委員の推薦（変更）について

委員の変更がある場合には、提出をしてもらうこととした。

《主な意見・質疑等》

特になし

(3) 情報提供のお願いについて

事務局から各団体にイベントや取り組みについての情報提供をお願いした。

《主な意見・質疑等》

特になし

(4) 今後の日程について

事務局から次のとおり周知した。

第 2 回大野中地区まちづくり会議（全体会）

平成 31 年 6 月 20 日（木） 午後 7 時～（会場：大野中公民館大会議室）

《主な意見・質疑等》

特になし

以 上

大野中地区まちづくり会議委員出欠席名簿

（まちづくり会議委員の役職：会長、副会長）

| No | 推薦団体名 | 役職等 | 氏名 | 出欠席 |
|----|--------------------|-----|--------|-----|
| 1 | 大野中地区自治会連合会 | 会長 | 森 逸雄 | 出席 |
| 2 | 大野中地区社会福祉協議会 | 会長 | 内藤 勝二 | 欠席 |
| 3 | 大沼公民館 | 館長 | 山梨 薫 | 出席 |
| 4 | 大野中地区商店会 | 代表 | 田村 小次郎 | 欠席 |
| 5 | 大野中地区民生委員児童委員協議会 | 会長 | 堤 道子 | 出席 |
| 6 | 大野中地区老人クラブ連合会 | 会長 | 臼倉 昭夫 | 出席 |
| 7 | 大野中地区自治会連合会 | 副会長 | 細谷 剛 | 出席 |
| 8 | 大野中地区自治会連合会 | 副会長 | 川島 光子 | 出席 |
| 9 | 大野中地区自治会連合会 | 副会長 | 岡部 哲夫 | 出席 |
| 10 | 大野中公民館 | 館長 | 大久保 宗俊 | 出席 |
| 11 | 大野台公民館 | 館長 | 高安 祥介 | 出席 |
| 12 | 大野中地区子ども会育成連絡協議会 | 代表 | 大谷 喜一郎 | 出席 |
| 13 | 大野中地区青少年指導員 | 代表 | 道司 ゆかり | 出席 |
| 14 | 大野中地区スポーツ推進委員 | 代表 | 笠井 俊弘 | 出席 |
| 15 | 大野中地区小学校PTA | 代表 | 村井 廣幸 | 欠席 |
| 16 | 大野中地区中学校PTA | 代表 | 下境 奈保 | 欠席 |
| 17 | 大野中地区健康づくり普及員 | 代表 | 三浦 益美 | 欠席 |
| 18 | 大野中地区ボランティアグループ | 代表 | 本田 清子 | 出席 |
| 19 | 大野中地区防犯協会 | 代表 | 成嶋 淳介 | 欠席 |
| 20 | 大野中地区交通安全母の会 | 代表 | 山本 玲子 | 欠席 |
| 21 | 大野中地区連合自主防災隊 | 代表 | 澁谷 勇 | 欠席 |
| 22 | 相模原消防団南方面隊第3分団 | 代表 | 義澤 彰 | 欠席 |
| 23 | 大野中地区企業（大野台事業所協議会） | 代表 | 後藤 真子 | 欠席 |
| 24 | 大野中地区地域包括支援センター | 代表 | 柴木 由佳 | 出席 |

グループ討議まとめ

「次代を担う子どもの育成に係る環境の充実について」

1. 現状と課題

地域コミュニティの衰退、核家族化の進行や多様化する就労形態、地域の市街化など、子どもたちや家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。

大野中地区では、子どもを地域で見守る活動を行っていますが人的確保が困難な状況であり、継続的な活動をすることが出来るのか危惧されています。また、子どもの遊び場が減少しており、公園などをはじめとした、子育て世帯の施設整備が必要となっています。

このようなことから、大野中まちづくり会議では地域で取り組むべき課題として、「子どもの遊び場の確保」や「子どもを見守る体制づくり」が重要であると考え、「次代を担う子どもの育成に係る環境の充実」をテーマとしてグループ討議を重ねてきました。

2. 具体的な案について

子どもの遊び場や居場所の確保及びニーズの把握について

大野中地区でも市街化が進み、子どもの広場など思いっきりボール遊びが出来る場所が減っていることから、今の子どもは群れて外で遊ぶことや異年齢の関わりなどの機会や経験が不足していると感じています。このようなことから、子どもが外で遊ぶことができる場所の確保が必要となっています。

しかし、その様な場所を新たにつくるのは難しいことから、今ある施設を活用し、外遊びができる場所として確保することができないものかを検討してきました。

その結果、身近な学校を活用し、誰でも遊べる日として校庭を開放すること、また、市が借地をしている子どもの広場などの土地については、相続などに伴う地権者の都合で場所がなくなってしまう事が無い様に市が土地を買収することで、外遊びができる場所の確保が図られます。更に、子どもが外で遊ぶことができる施設の場所や遊具の設置状況などの情報を地域で把握し、その情報を地域の子どもへ配信することで、子ども同士の交流の機会が図られると思います。また、外遊びができる場所以外にも今の子どもは、テレビゲームやカードゲームなど家や施設の中で遊ぶことが多いことから、家や施設の中なども遊び場や居場所になると考えられます。

このような状況を踏まえると、外遊びが出来る場所を確保するとともに、多様化する子どものニーズを把握したうえで、遊び場や居場所に係る環境の充実を図っていく必要があります。

子どもを見守る体制づくりについて

地域では小学校を中心として地域の人たちが主体となり、子どもの登下校時に見守り活動を実施していますが、高齢化や担い手不足などにより、人員の確保に苦慮しております。この状況の中、小学校の校庭の活用にも、子どもを見守る体制づくりが必要であると考え討議を行いました。子どもを見守る体制づくりを地域のみで新たに組織することは、人員の確保が困難であることや安全面に係る運営の経験や知識が浅いことなどの課題が抽出されました。

このようなことから、子どもを見守る体制づくりについては、無償のボランティアで地域のみで組織するのではなく、見守りを専任で行う組織として有給で雇う体制づくりなども視野にいれて検討する必要があると感じております。

また、今の子どもの生活環境においては、携帯電話やインターネットの普及に伴うネット犯罪などの被害や危険性が懸念されております。このような危険から子どもを守ることや教育をすることも必要であると考え、自治会間の連携やPTAとの協力体制を図りながら、犯罪防止などに係る情報を地域の大人たちが共有し、子どもへ伝えることも、子どもを見守る体制づくりのひとつになると考えました。

3.まとめ

グループ討議の中で、2つのテーマを柱に様々な意見が出されました。

今回のグループ討議では、地域の現状や課題を抽出し、「地域でできること」、「行政でできること」、「協働でできること」を視野に入れながら討議を重ねてきました。

このような中、地域課題を発掘し行政に頼らず地域で解決していければ理想的であります。地域だけで解決することが困難な課題もあり地域と行政がともに考え、取り組んでいく必要があると考えております。

そのためには、大野中地区の様々な団体の代表が集まって組織をしているまちづくり会議を地域と行政間のパイプ役として活用するとともに、団体相互で連携することで課題解決に向けた取組みが図られることが期待されます。

最後に、まちづくり会議では、地域支援のあり方や解決に向けた方策などについて、行政と意見交換や情報共有を行いながら、今後の体制づくりや課題解決の手立ての一つになるように取り組みを進めていければと思っております。